

吾は行くなり

校長 関田 晃

京都・東山の麓に「哲学の道」と呼ばれる散策路があります。南は南禅寺あたりから、北は銀閣寺まで続く疎水に沿った散歩道です。私が高校2年生の修学旅行のグループ行動で、友人と5人、それぞれが思索に耽りながら黙々この道を歩きました。当時、私は教職の道を選ぼうか悩んでいました。志を同じくする親しい友人はおらず、家族や親戚にも教職に就いている者はいませんでした。友人たちは友人たちで、その時それぞれが進路選択に悩んでいました。

途中、戦前の哲学者西田幾多郎が詠んだという歌が石碑に刻まれていました。

「人は人 吾はわれ也 とにかくに 吾行く道を 吾は行くなり」

自らの進路に悶々としていた私は、しかしこの散策路を歩くうちに意を固め、教職を目指すことを決めました。17歳の秋のことです。

修学旅行とは不思議なもので、同じ土地に個人旅行や家族旅行で行くのととは、どうも趣が異なるようです。京都を訪れるのは初めてではなかったし、その後も幾度か訪れていますが、高校の修学旅行で訪れたこの時のことが、私にとっては格別な京都として、今なお記憶の底に確固として残っています。

修学旅行として沖縄に行くのは、私にとって初めてのことです。高校2年生の頃と同じ感受性が、たとえ今の自分の中に欠けていたとしても、それを補って余りある豊かな感受性を持つ328人が一緒です。その一人ひとりが沖縄で何を見、何を聞き、そして何を感じて考え巡らせるのか、その後それらがどう記憶に残り、君たちの生き方にどう影響するのか、ワクワクしています。